カトマンズでのアクティビティ　　岡　大暉

私立聖母被昇天学院

カトマンズ市内での景観は京都市内と酷似しているのではないかと思いました。カトマンズ市内では京都市内と同様に道脇に商店街が立ち並ぶ街構造をしており、四条や五条のような雰囲気がありました。商店の人々は商店街が一つの観光資源と考えているのか、とてもフレンドリーに接してくれ商品の説明から与太話までとことん付き合ってくれる印象がありました。しかし、商品に値札をつけるという文化はないようであり商品の価値を見分ける能力がないとぼったくられるのが日常であるため、日本で同じような商品を買うとしたらの金銭感覚を持っていると直よかったと思いました。
カトマンズ市内にも京都市内と同様にいたるところに寺社仏閣が見受けられるがその形や様式は日本のものと様変わりしているので新鮮な目で体験することができると思いました。また寺社仏閣は人々の生活に溶け込んでおり仏塔や寺院一つ一つにコミュニティが形成されていて団らんする人々が多くみられました。この文化は近代日本にはないものであり寺社仏閣が本当の意味で観光資源化された日本では体験できないものであるとともに、素人ながら近代以前の日本ではカトマンズと同じような文化があったのではないかと想像を掻き立ててくれる体験でした。
カトマンズ市内の主な移動手段として長距離移動にはバスやタクシーが利用されていて、バスはいわゆるインドの電車状態であると思い、短距離移動には日本の人力車もどきの自転車送迎車なるものが見受けられ私個人としては体験していないが移動という文化を体験できる機会であったと思いました。ネパールでは公共交通機関(電車や LRT)が今はまだ整備されていないので、鉄道国家である日本とは一風変わった体験が移動という文化を通じて体験できるのではないかと思いました。
ネパール研修　紹介.docx

Tibet International
Travels & Tours
Bhutan Internation
Treks Pvt. Ltd.
GAUSIA EMBROIDERY
SALE
UP TO
50 %

（上）ネパール一の繁華街

《トリブバン大学生との交流》

（藤原 由仁 兵庫県立小野高校学校出身）

今回の研修では、現地の学生と一日を共にしました。案内していただいたことで旧市街を散策したり、食事をしたりしながら、現地の人々との交流を通じてネパールをより深く感じることができました。

特に印象に残ったのは、日本語での会話です。日本語が堪能な学生が歌を披露してくれたり、日本に行ったらやりたいことを楽しそうに語ってくれたりしました。異国で母語に近い言葉を交わすことで、単なる観光以上のつながりを実感することができました。また、こちらの関心にすぐ応えて現地の特産品を買ってきてくれたことも忘れられません。小さなやり取りの中に相手を思いやる気持ちが表れており、交流の温かさを強く感じました。

さらに、帰りには希望していた「テンプー」という乗り合いの乗り物に挑戦しました。学生たちが複数の運転手に行先を確認してくれたおかげで無事に乗車することができましたが、自分たちだけでは到底できなかったと思います。現地の交通を体験できたのも、支えがあったからこそでした。

この一日を通じて、交流とは言葉だけではなく、行動や気遣いを通じて築かれるものだと学びました。学生たちの温かさに触れたことで、ネパールの文化をより身近に感じることができ、国際交流の意義を改めて実感しました。

今回の研修では、トリブバン大学の学生であるマスさん、デニスさん、リフィカさんに案内していただき、旧市街の散策や食事、交通体験を共にしました。観光ではなく、現地の学生と行動を共にしたからこそ得られた交流の学びが多くありました。

午前中はカトマンズの旧市街バサンタプルを訪れ、レンガ造りの建物や細い路地を歩きながら、リフィカが中心となって日本語で案内をしてくれました。彼女の兄が名古屋で働いていることもあり、日本語がとても上手で歌を披露してくれたり、日本に行ったら挑戦したいことを楽しそうに語ってくれたりしました。異国の地で日本語を通じて自然に会話が弾んだことは、ネパールと日本のつながりを実感させてくれました。

また、デニスが僕たちの関心に気づきやドリンクやヒマラヤ岩塩をすぐに買ってくれた場面も印象的でした。些細な出来事ではあるが、そこには相手を思いやる温かさが表れておりネパール人のやさしさを直に感じることができました。

上「交流の記念写真 ― 旧市街にて」
下「出発前のアイスブレイク」